

恩師の
思い出

ウラさ

市瀬岩夫先生への想い

中島満三（高5回）

【市瀬岩夫（いちのせ・いわお）先生略歴】

飯田出身。飯田高校中23回。東京大学法学部卒業。東京で銀行勤務を経て1943年11月飯田高校に奉職。以後26年間、物理、英語、音楽、一般社会、ドイツ語を教え69年3月退職。99年7月5日逝去。94歳。



卒業記念写真の市瀬先生(左)と私＝1953年3月

卒寿を越えた今も市瀬岩夫先生の記憶は鮮明に浮かんでくる。あだ名「ウラさ」で知られる名物先生だ。由来は夏目漱石「坊ちゃん」の「うらなり」先生にイメー

ジがそっくりだからとか。
私は昭和25年4月、飯田高校に入学して早々に市瀬先生にお会いした。教室で

は英語、音楽、一般社会の授業を受けた。英語は発音にこだわる「実用英語」が新鮮だった。ピアノが得意でよく弾いていた。放課後、希望者にドイツ語の授業を開いていて私も受講した。同期の友人が、東大の入試をドイツ語で受験したくらいだからレベルは相当なものだったと思う。3年次は、市瀬先生が担任だった。進路で相談にのっていただいたが、最後は本人の意志を尊重してくれた。自宅浪人した時は、夏休みに開いていた受験支援の講習でも市瀬先生にお世話になった。高校を卒業して、正月に帰省する度に先生宅を訪れていた。大学を卒業、就職して1年ごろか、会社を辞めて教員になることを真剣に考え、先生に相談したことがあった。先生は「石の上にも3年。3年経って気持ちが変わらなかつたら面倒見る」と言ってくれた。会社を辞めることなく常務まで全うできたのは、先生の助言のお蔭と感謝している。鼎の婦人会館で開いた結婚式にも同僚の先生



●なかしま・みつせう
鼎出身。一橋大学経済学部卒。石川島播磨重工業(株)(現(株)IHI)入社。常務取締役で退職。横浜市在。地域の社会福祉活動の一環としてコーラス活動を20年以上続けている。

と出席して下さり、掛合で祝辞を。式後も私の自宅で夜更けまで歓談された。授業に厳しく、「怖いウラさ」のイメージが浸透していたと思うが、生徒のことを考え、生徒への思いやりを感じる場面にも何度も出会っている。私自身も怖い思いを持っていたが何故か受け入れていただいたように思っている。晩年は、緑内障で全盲になったと聞く。その身で動けなくなつた奥様のために台所に立ち面倒をみていた。残念だったのは、先生が倒れたと聞き横浜から飯田に駆けつけたが、事情あつて会えなかつた。このことを知った先生のご令嬢(長女)から、長文の手紙をいただいた。面会の申し出を受けられなかつたお詫びとともに「中島さんのような方がいて下さつたことを知り、父の生涯に一筋の光を見たように思い心から感謝申し上げます」と。孤高で生き抜いた市瀬先生の姿の姿を分かち合えたように心に響いた。

(作協力：栗下修二)